

いわた 文化財だより 第110号

磐田市教育委員会教育部文化財課 平成26年5月1日発行

目次

- 文化財探偵は見た 遺跡を知る(2)
『新豊院山古墳群』……………P1~2
- 『解説旧見付学校 改訂版』発売のお知らせ……………P3
- 第9回国分寺まつり開催……………P4
- コラム 安藤 寛
『世界文化遺産・富士山が見えるところ』……………P4



文化財探偵は見た



遺跡を知る

第2回

しんぽういんやまこふんぐん 新豊院山古墳群

市内の遺跡を知る新シリーズの第2回目は…国史跡の新豊院山古墳群を紹介しよう！向笠竹之内にある曹洞宗寺院・鷲溪山新豊院の裏山に弥生時代～古墳時代にかけての墳墓群が分布しています。お寺の本堂裏手から、10分程度の山登りで古墳群に到着します。ハイキングにちょうどよい季節、ぜひ訪れてほしい遺跡です。



発掘調査時の新豊院山古墳群（昭和56年・北から）

新豊院山古墳群ってどんなところ？



- ① 太田川をのぞむ磐田原台地東縁の尾根上にあります。
- ② 弥生時代中期～後期（約2,000年前）の墓群、古墳時代初頭から前期（約1,700年前）にかけての古墳があり、長い期間この尾根上が墓域であったことがわかります。
- ③ 2号墳は静岡県内でも最古クラスの古墳です。中心部からは三角縁神獣鏡や青銅や鉄でできた鍬や剣など、近畿地方の王との交流を通して手にいれたと考えられる遺物が出土し、ここに葬られた人物が、磐田原台地東北部を治めた権力者であることが想定されています。

新豊院山2号墳から出土した鏡

さんかくぶちごさくめいしんしじゅうきょう
三角縁吾作銘四神四獣鏡

埋葬施設から出土した鏡です。直径 21.5 cm で裏面中心にあるヒモを通す穴の周囲に模様が表示されています。模様は傘を何段にも重ねた模様によって4つの区画にわけられ、その中に西王母と東王父という二人の神様と二体の獣が向き合うように配置されています。模様の周囲には『吾作竟自有紀 辟去不羊宜古市 上有東王父西王母 令人長命多孫子』という文字が刻まれ、「鏡をもっていることで長寿や子孫繁栄が約束される」という内容が書かれています。この鏡は埋蔵文化財センターにて保管（展示）されています。



パンフレット片手に古墳散策はいかがですか？

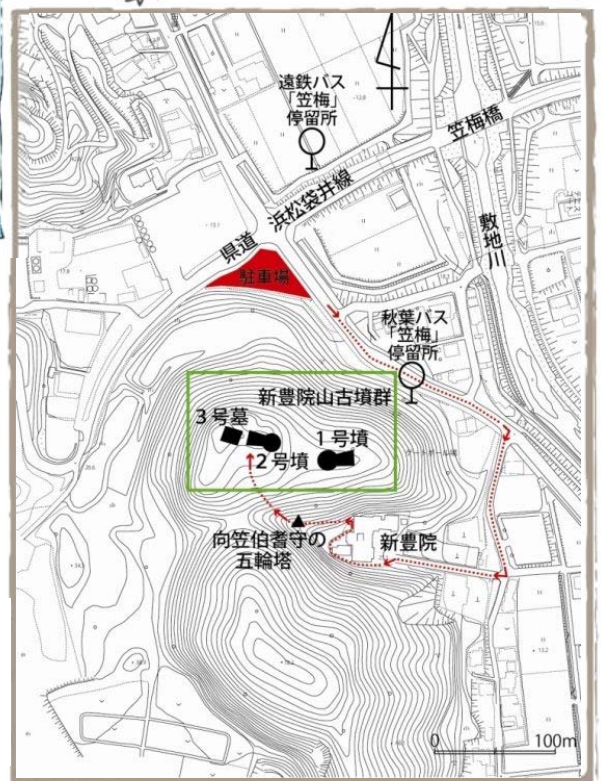
このたび、地元の向笠史談会や新豊院などの協力のもと、新豊院山古墳群をわかりやすく解説したパンフレットを発行しました。それにあわせ、古墳へのルート整備も行い、大変歩きやすくなりました。ぜひご家族で古墳散策をしてみてください。

※お寺の中を通りますので、法事などの際にはお静かに通行していただくようお願いいたします。（禁煙です。）



新豊院山古墳群パンフレット

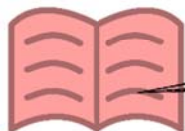
オールカラーA3二つ折り、無料で配布しております。
配布場所：埋蔵文化財センター（見付 3678-1）、旧見付学校（見付 2452）、旧赤松家記念館（見付 3884-10）、歴史文書館（岡 729-1 竜洋支所内）



解説旧見付学校 改訂版 発売のお知らせ

磐田市旧見付学校と文化財課（埋蔵文化財センター）では、見付学校の沿革や教育のあゆみを解説した【解説旧見付学校 改訂版】を発行しました。オールカラー、A4判、本文55ページで、約220点の写真を掲載しています。

改訂版刊行にあたり、すでに完売している「解説旧見付学校（平成12年3月発行）」の内容を一部変更していますが、原文・写真・図については「解説旧見付学校」のものを使用しています。



中身の一部をご紹介しますと・・・

「3. 見付学校開校」(本書P5～P11)では・・・

明治初期、見付学校開校当初の様子を解説しています。なかでも、7ページに掲載してある見付学校落成当時の写真はとても貴重なもので、本書冒頭の見開きに拡大して掲載しています。



「6. 教育のあゆみと教科書」(本書P34～P45)では・・・

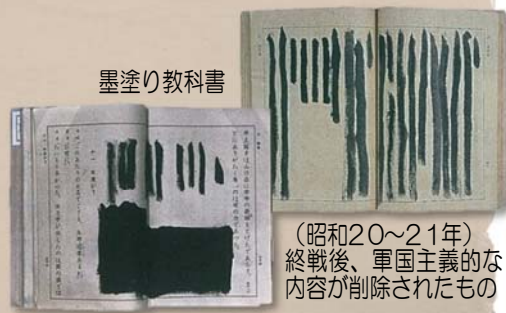
明治初期から戦後にかけて使用されていた教科書の写真を、年代ごと、わかりやすく掲載しています。



学制発布(明治5年)後まもなく使用されたもの



地元で翻刻(活字を組み印刷)されたもの



墨塗り教科書

(昭和20～21年) 終戦後、軍国主義的な内容が削除されたもの

「解説旧見付学校」同様、ご愛読、ご活用いただければと思います。

【販売場所】

- ◇磐田市旧見付学校
 - ◇文化財課（埋蔵文化財センター）
- 販売価格：1,000円



第9回 国分寺まつり開催!

6月14日(土) 9:30 ~ 16:00

荒天の場合は
翌日(15日)

「2014 国分寺まつり IN 遠江」が今年も国分寺史跡公園で開催されます。ステージでは天宮神社(森町)の舞楽や合唱等があり、塔跡では茶会や琴演奏があります。文化財課のブースでは今年も国分寺の瓦などを展示するほか、市役所6階から国分寺跡を見る「展望ツアー」を行います。参加を希望される方は、出発時刻に文化財課のブースにお集まりください。

なお、午前中のツアーでは、展望ツアーに続いて観光ボランティアふれあいガイドの会による「中泉歴史探訪」も行われます。



昨年の国分寺まつりでの中泉歴史探訪(塔跡)

《その他のイベント》塔の相輪展示/蹴鞠実演/ハンドベル等のステージイベント/餅投げ/お茶会/凧揚げ/子どものゲーム/工作/塔本塑像作り/フリーマーケット/飲食物販売

＜展望ツアー出発時刻＞

10時15分、13時15分、
14時15分

【問合せ】

- 文化財課事業について：Tel0538-32-9699
- 国分寺まつりについて：Tel090-9021-1327
(実行委員会・今井)

コラム

世界文化遺産・富士山が見えるところ

安藤 寛

この3月下旬に諏訪湖一周16kmを歩く機会がありました。前日は雪がちらつきましたが、翌日は雲ひとつない快晴。湖越しに真っ白な雪をかぶった八ヶ岳や御嶽山などが見え、天竜川の源といえる釜口水門も見学できました。しかし、一番感動したのは湖岸の一角から富士山が見えたことでした。諏訪湖には何度か来ていますが、これまで見えたことはなく、そもそも諏訪湖から富士山が見えること自体を知らませんでした。後で知ったことですが、江戸時代の葛飾北斎や安藤広重の浮世絵にも諏訪湖と富士山が描かれています。

また、中央本線で山梨県内を新宿方面に向かった場合、富士山は右側に見えるもの、という感覚がありますが、一部左側に見えるところがあるのも今回初めて知りました。思えば身延線や東海道線でもそうした場所があり、上り列車では静岡の手前で右側に見えます。

旧東海道では、原～吉原間の「左富士」が有名で、西に向かっているのに左側に見えるのです。吉原宿が水害で移動したことにより東海道の位置が変わったことが原因のようです。「そんなの見たことない」という方は、この機会にぜひ!



諏訪湖から見えた富士山
(逆光で撮っています)

- 新豊院山古墳群を訪ねるウォーク『向笠てくてく探検隊』が開催されます。当日は、文化財課職員による新豊院山古墳群の現地説明あり。参加希望の方は下記へ。
- ◆開催日：5月18日(日)9時スタート(受付8時30分～)
- ◆コース：新豊院山古墳群、六所神社(笠梅)ほか(約8キロ)
- ◆参加料：100円(保険代含む)
- ◆申込：5月11日までに向笠公民館へ TEL0538-38-0216

発行：磐田市教育委員会文化財課
(磐田市埋蔵文化財センター)
住所：〒438-0086 磐田市見付 3678-1
電話：0538-32-9699
FAX：0538-32-9764
Mail：bunkazai@city.iwata.lg.jp

